

＝はじめに＝

本県では、令和7年3月までに地域農業の将来設計図となる420の地域計画が策定されました。

今後は、策定された計画をいかに実行・実現していくか、将来の担い手に不安があるなど不透明な部分の完成度をいかにして高めるか、さらには農地や農業に関わる地域住民の多様化が進行している中で、いかにして地域計画を浸透させるかといった課題に取り組むステージに移行します。

地域農業の担い手や精通者を中心に組織され、農業・農村の公的代表機関というべき農業委員会は、地域計画の実行・実現、さらには完成度の向上（ブラッシュアップ）に積極的に参画することを当面の重点課題として取り組む必要があります。

しかし、農業委員会における農地集積・集約化をはじめとした「農地利用の最適化の推進」に関する取り組みは、一朝一夕には成果が得にくく、地道な活動が多くなるため、積極的な活動ですら評価を得にくい側面があります。

このため、本県の農業委員会組織では、農地利用の最適化に向け、「くまもと農業・最適化推進運動」という運動の旗印を掲げ、組織一丸となった活動を展開してきました。

本資料は、同運動により、令和6年度に重点的に取り組んだ活動を各農業委員会から報告いただき、農業会議が取りまとめたものです。

重点活動として報告があった内容を大別すると、目標地図の素案作成や地域計画策定に関する取り組みが29農業委員会、農地集積・集約化、遊休農地の発生防止や解消活動など、いわゆる「農地利用の最適化」の推進活動が16農業委員会で、遊休農地の再生や収穫作業などを通じた食農教育などの多彩な取り組みも見られます。

令和7年度からは、地域計画の実践・実現等に関する取り組みが農業委員会の当面の重点活動になるため、これらを中心とした『「地域計画」くまもと3R e運動』を組織運動の柱に地域農業の持続的な発展に取り組むこととしています。

当会議としましては、農業委員会活動の着実な前進に向けた支援活動を通じて、地域農業の再生・振興に努めて参りたいと考えておりますので、今後とも県をはじめ関係機関の御支援・御協力を賜りますようお願いいたします。

最後に、本冊子の作成にあたって、協力いただきました農業委員会関係者の方々にお礼申し上げます。

令和7年9月

一般社団法人熊本県農業会議